

霧島山

○概況

御鉢付近を震源とする火山性微動が発生し、火山性地震もやや多くなりました。

○噴煙活動の状況

期間中、霧島山で噴煙は見られず、噴気等の表面現象に大きな変化はありませんでした。

○地震活動の状況

気象台震動観測点 A 点（新燃岳の南西 1.7km）及び東京大学地震研究所・高千穂西観測点（御鉢の西 1.1km）のデータで、6 月 12 日、13 日、14 日、27 日、29 日に計 7 回の火山性微動を観測しました。高千穂西観測点のデータによると、微動回数と継続時間は 12 日 1 回 23 分、13 日 1 回 1 分、14 日 3 回 27 分（16 分、2 分、9 分）27 日 1 回 28 分、29 日 1 回 9 分でした（図 2）。また、御鉢付近を震源とする火山性地震は微動が出現した 12 日以降やや多い状態で推移し、高千穂西観測点の 6 月の地震回数は合計 142 回で、5 月（26 回）より増加しました。1 日あたりの回数がもっとも多い日は 27 日の 34 回でした（図 1）。

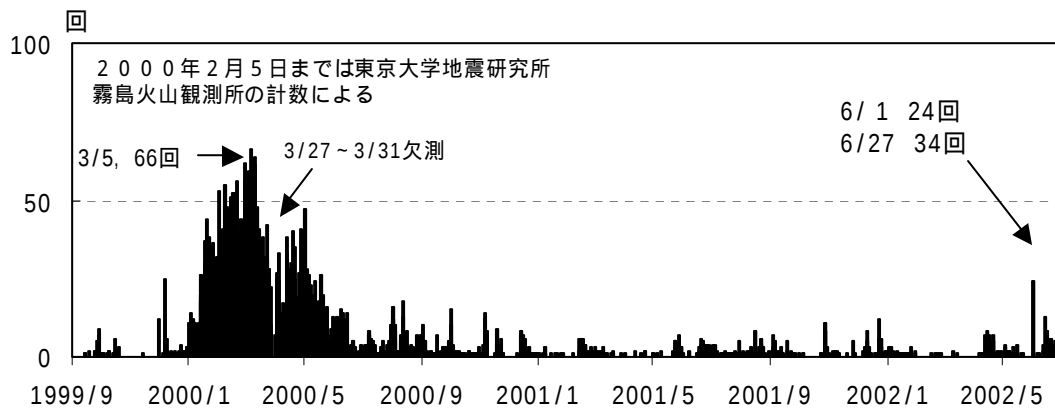


図 1 御鉢付近を震源とする地震の日別回数（1999 年 9 月～2002 年 6 月）

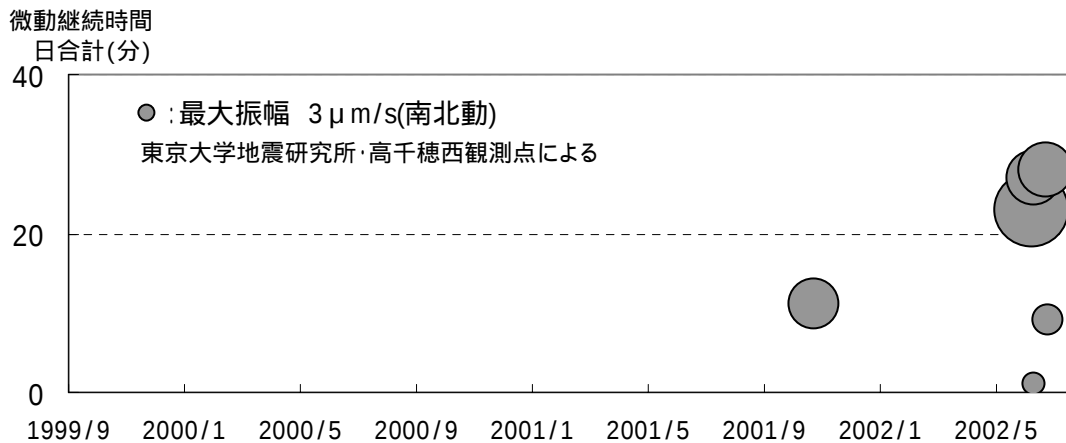


図 2 御鉢付近を震源とする微動の発生状況（1999 年 9 月～2002 年 6 月）

気象台震動観測点 A 点で観測した火山性地震は、6 月は御鉢付近を震源とする地震が増加したこともあり、合計 162 回と 5 月（26 回）より増加しました。1 日、6 日、27 日に地震がやや多く発生し、1 日あたりの地震回数はもっとも多い日で 35 回でした（図 3）。1 日と 27 日は主に御鉢を震源とする地震ですが、6 日は御鉢、新燃岳から離れた地震がほとんどで火山活動とは直接の関係はないと思われます。

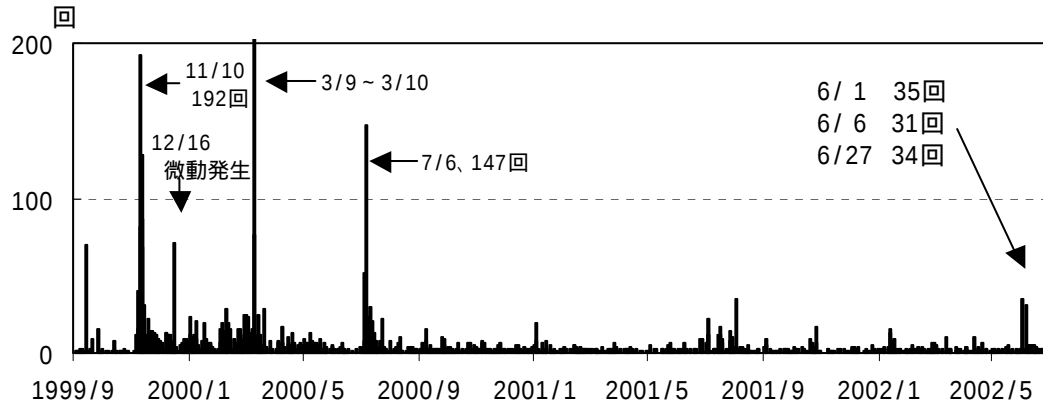


図 3 震動観測点 A 点の日別地震回数（1999 年 9 月～2002 年 6 月）

○現地観測の結果

気象台が 6 月 21 日に実施した御鉢火口の現地観測では、御鉢火口の形状に変化は見られませんでした。また、火口底噴気地帯の噴気量にも大きな変化は見られず、噴気温度は 94.4 ～ 94.8 で前回 5 月 9 日に行なった現地観測の測定値（95 ）と同じでした。火口内の連続した噴気温度の記録をみても本年 1 月以降 95 前後で推移し、火山性微動が出現した 6 月 12 日～14 日頃に大きな変化は見られませんでした（図 4）。

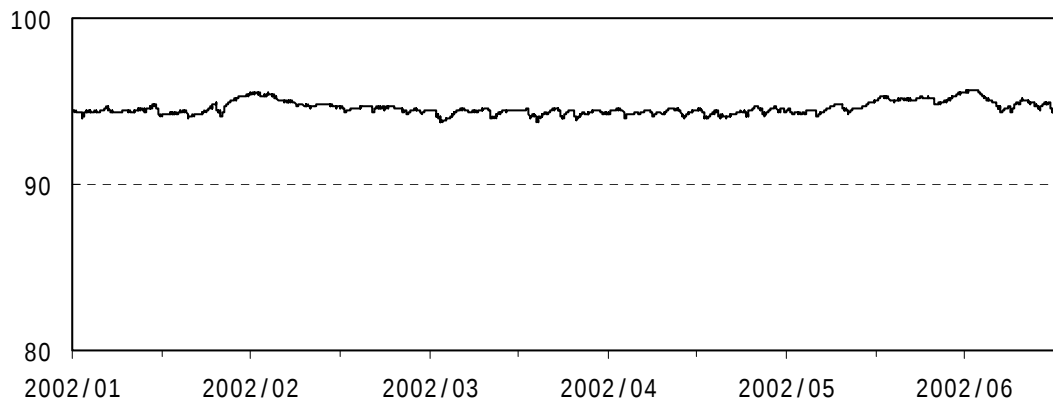
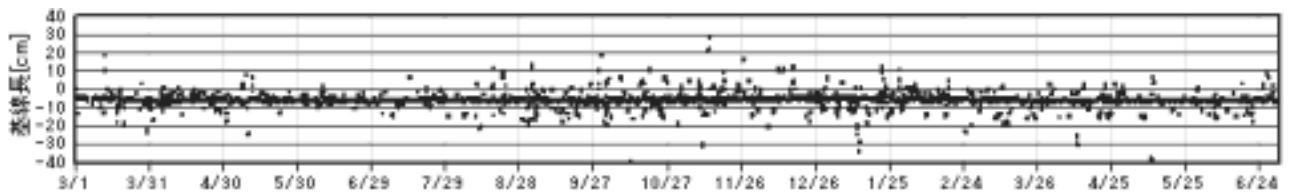


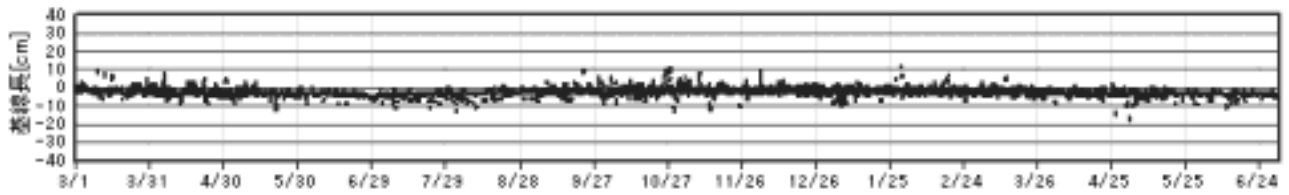
図 4 御鉢火口内の噴気温度の変化（2002 年 1 月～2002 年 6 月 21 日）

○地殻変動活動の状況

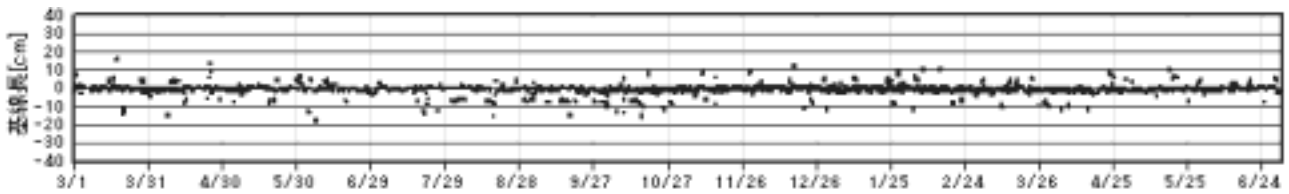
GPS による地殻変動観測では、御池 - 高千穂、御池 - 高原、高千穂 - 高原の各観測点間の 3 つの基線長に変化は見られませんでした(図 5)。



御池 - 高千穂の基線長グラフ(2001 年 3 月 1 日～2002 年 6 月 30 日)



御池 - 高原の基線長グラフ(2001 年 3 月 1 日～2002 年 6 月 30 日)



高千穂 - 高原の基線長グラフ(2001 年 3 月 1 日～2002 年 6 月 30 日)

図 5 GPS による基線長グラフ

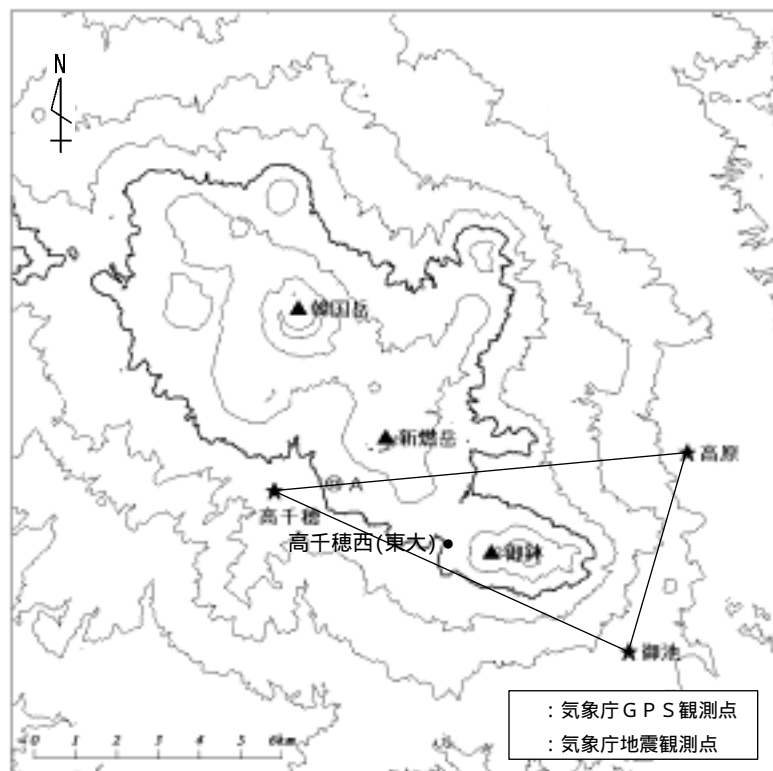


図 6 観測点位置図